



## なんで勉強するの？

学校だより【スマイル】第6号でお知らせしたとおり、「なぜ勉強するのか？」を考えるヒントとなる文章をもう2つ紹介します。自分で、またお家の人と一緒に読んでみましょう。

### 勉強しないと心が栄養失調になる

瀬戸内寂聴さん（作家）

勉強とは食事と同じですよ。人間は食事をして体に栄養を取り込んで成長しますよね。勉強とは知識を取り込んで、頭や心を成長させることです。勉強とは、いわば「心の栄養」を取るということです。

食べるものをしっかり食べていれば体は大きくなりますが、勉強をしていないと中身の無い出来損ないの人間になってしまいます。あなたのお父さんもお母さんも、きっと子どもの頃にしっかり勉強したから立派な大人になれたのです。

食べ物が足りないと、体はガリガリにやせこけて、何がしたくても体力が続かず、すぐにケガをしたり病気をしたりしてしまいますよね。それでは満足な人生を送ることはできません。食べ物の足りない国の子どもたちがそういう姿になって苦しんでいるのをテレビなどで見たことがあるでしょう。あれを「栄養失調」と呼びます。

では「心の栄養」が足りないとどうなるか分かりますか？「心の栄養失調」になるのです。心の栄養失調とは次のような状態です。

まず想像力がなくなります。想像力がなければ将来の夢を思い浮かべることができません。将来の夢を思い浮かべることができなければ、頑張ろうという気持ちもわいてきません。想像力がなくて、どういう時に自分は嬉しいと感じるのか、悲しいと感じるのか、自分の気持ちも分からなくなります。想像力がなくてということは、どんなことをしたら友達が喜ぶのか、傷つくのか分からないということです。何が正しいことで何が悪いことなのかの判断もできなくなります。正しいことと悪いことの区別がつかないから、正しいことのために戦うということもできません。正しいことをする喜びも分かりませんから、本当の幸福を感じることもできません。それどころか自分が幸せなのか、不幸なのかすら判断がつかないということです。

もっと悪いことに、ろくに勉強もせず、心の栄養失調のまま大きくなってしまった人は、自分が心の栄養失調であることに気づくことすらできません。こうなってしまったらおしまいです。だから子どものうちにしっかりと勉強して「心の栄養」をたっぷり取っておきましょう。

おおたとしまさ（2013）『子どもはなぜ勉強しなくちゃいけないの？』日経 Kid+.

## 人生とは経験値をためるゲームのようなもの

藤原 和博さん（東京都初の民間出身校長）

人生はロールプレイングゲームのようなものだと考えてみて欲しい。ロールプレイングゲームでは「経験値」をためないと先に進めないよね。「経験値」を手に入れるには、刀だの、楯だの、よろいだの、装備を集めてたくさんの敵を倒さなければならない。「経験値」がたくさんたまると次のステージに上がれて、より強い敵と戦うことになる。でも敵が強ければ強いほど一度に得られる「経験値」も多くなる。戦っているうちにより強力な刀やよろいをゲットすることもある。そうやって少しずつレベルアップしていくと、お姫様を助けてあげられたり、思わぬごほうびがもらえたりする。

最強装備の話から始めよう。

実は最強装備の基本セットは遊びから手に入るようになっている。小学校に入る前から思い切り遊んでいたというキミは、すでに相当に強力な2つの装備を手に入れているはずだ。

1つ目が「集中力」という装備。聞いたことあるよね。今、自分がやっていることに、頭も体も100%使える力だ。これがないと自分の力を出し切れない。時間があっという間に過ぎる感じがする時や、他のことが耳に入らないような状態になっている時こそ、「集中力」が最強の状態になっている時なんだ。

「集中力」は、自動車のエンジンのようにキミをモーレツに動かすエネルギーを発生する。そして自然に「集中力」が高まるのが遊びの時。たくさん遊んだキミは、すでに相当にいい装備を手に入れているはずだ。

遊びの中から手に入れられるもう1つの装備が「バランス感覚」だ。これも聞いたことがあるよね。普通は片足で立ってもよろけないというような時に使うけど、ボクはもう少し広い意味で使うよ。自分と周りのものとの関係に気づく能力といえれば分かるかな。

「集中力」と「バランス感覚」の2つはこれから長い人生の中で、キミを守る「最強装備」のコンビ。この2つがそろそろこれからの時代を生きていく上で絶対必要な「究極の力」が手に入るんだぞ。

将来、キミが大人になる頃には、今とは違う全く新しい世の中がくるとボクは予想している。お父さんやお母さん、学校の先生だって知らない世の中。これまでのルールややり方が通用しない世の中をキミたちは生きていかなければならないのだ。言ってみれば「答えがない世界」で、「答えがない世界」を生きる上で必要となるのが「究極の力」。これをボクは「つなげる力」と呼んでいる。

学校で習う計算のしかたや漢字、都道府県の県庁所在地などの知識をそれぞれ1つのビーズの玉だと想像してみてほしい。勉強するごとにキミは色とりどりのビーズを手に入れることになる。「答えがない世界」では、自分でつなげたビーズをたぐり寄せて、自分なりにいちばんまともだと思う「答え」を自分で見つけなければならない。

どんな状況でもできるだけまともそうな「答え」をつむぎだすために、できるだけたくさんのビーズを集めて、いろいろな方法でつなげておくこと。それが勉強することの正体だと言える。

そして「つなげる力」を鍛えるために必要なのが「集中力」と「バランス感覚」なんだ。「集中力」や「バランス感覚」をレベルアップするために最も効果的なのが勉強だ。

遊びで身につけた「集中力」と「バランス感覚」という「最強装備」のコンビを、勉強でレベルアップして「つなげる力」という「究極の力」を手に入れば、「答えがない世界」で「自分らしい人生」を作ることができるということ。

おおたとしまさ（2013）『子どもはなぜ勉強しなくちゃいけないの？』日経 Kid+.